



人とクルマのいい関係をめざして

7

2008 JULY

●編集室：〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
 本田技研工業株式会社
 安全運転普及本部内
 電話 03(5412)1736

●編集人：千葉英雄

●年間購読料：1200円(定価1部100円・消費税込)
 ※郵便振替 口座番号：00170-7-173273
 ※加入者名：(株)アストクリエティブ
 安全運転普及本部係

今月の
スポット

クルマに乗っている全員がシートベルトを着用しないと、全員の安全は守れません。(特集より)

CONTENTS

シリーズ：命を守る教育現場
 第4回「後部座席シートベルト着用の啓発②」……………1

ドライバーからシートベルト着用の呼びかけを教育最前線④……………3

●ドリームモータースクール昭和・長野県更級農業高等学校 交通安全教室／高校生自らが交通安全について様々な視点から考えるブレイク教育……………4

TOPICS……………4

●第8回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会／運転技術や指導力のさらなる向上をめざして83校177名の教習指導員が参加……………5

TRAFFIC ADVICE—交通教育センターから……………5

●茂木町立逆川中学校・交通安全教室／KYTを活用して通学路に潜む危険を生徒自身に気づいてもらう……………5

SAFETY REPO……………5

●Honda Cars 静岡西・エンジョイ!!モビリティワールド/販売会社からお客様の家族へ。交通安全知識を身につけるイベント……………5

NEWS REVIEW……………5

●(社)東京指定自動車教習所協会・受付対応コンテスト……………5

DOCUMENT EYE ⑥……………6

●街を走る自転車の行動を観察する……………6

安全運転普及活動ホームページ <http://www.honda.co.jp/safetyinfo/>

シリーズ：命を守る教育現場 第④回「後部座席シートベルト着用の啓発②」

ドライバーからシートベルト着用の呼びかけを

図4 クルマの後部座席に人を乗せる時、その人にシートベルトの着用を勧めていますか？(N=1031)

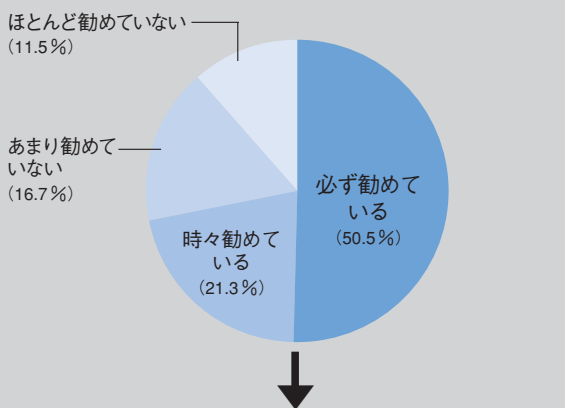


図5 年代別

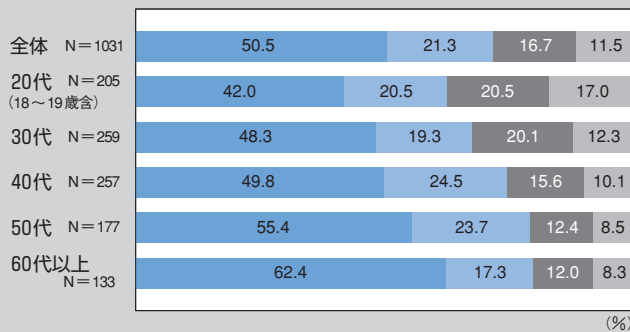
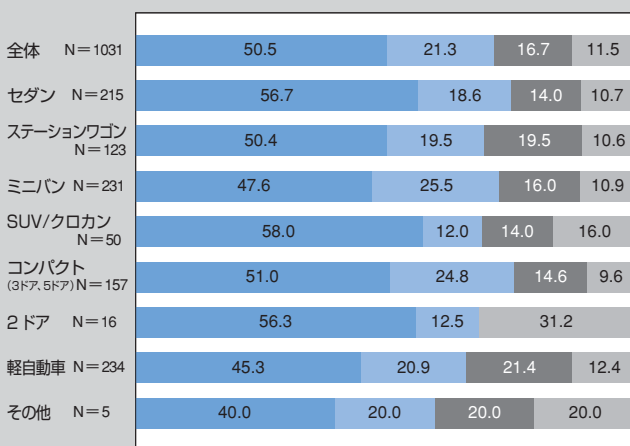


図6 主に運転するクルマの車種別



※所有者が自分以外のもの(レンタカー、知人のクルマ等)も含む

■後部座席でのシートベルト着用が義務化されたことをご存知ですか？(N=1031)
 知っている…99.4% 知らない…0.6%

図1 回答者の普通自動車免許の免許保有歴(N=1031)

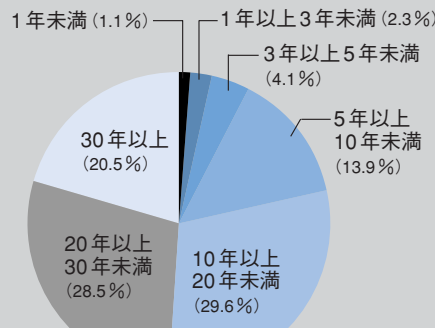


図2 後部座席でシートベルトを着用しない場合の危険性をご存知ですか？(N=1031)

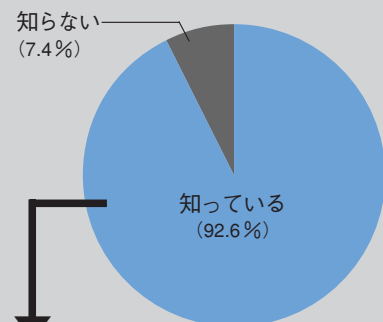
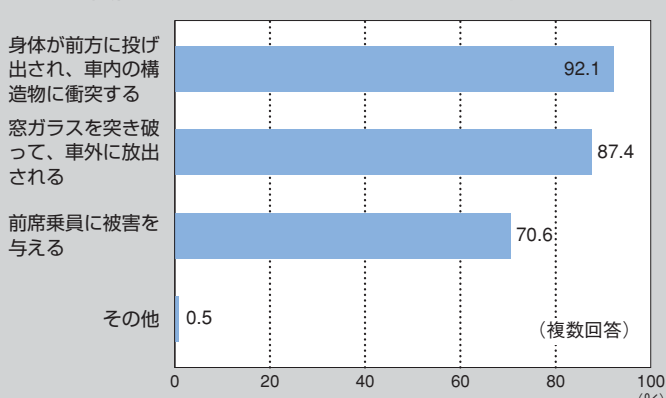


図3 後部座席でシートベルトを着用しないで事故にあった時の危険性として、知っていることを全てお答え下さい(N=955)



改正道路交通法の施行により、クルマの後部座席(以下、後席)でのシートベルト着用が義務化された後の6月中旬、本紙は一般ドライバー※1を対象に、シートベルト着用についてのインターネットによるアンケート調査を行った。今回は、この調査の結果および実際の事故事例を紹介しながら、クルマを利用する人々に後席のシートベルト着用を普及させていくための課題を探る。

※1 プライベート、ビジネスを問わず週1回以上運転し、自分自身も後席に乗ることがある全国の一般ドライバー(調査期間：6月16～17日)

アンケートの回答者1031人(男性531人・女性500人)の年代構成は20代(18～19歳含む)205人(20.0%)、30代259人(25.1%)、40代257人(24.9%)、50代177人(17.1%)、60代以上133人(12.9%)である。

シートベルト着用義務化、非着用は危険性は認識

改正道路交通法が施行され、後席でのシートベルト着用が義務化されたことを「知らなかった」のはわずか6人(0.6%)と、ほぼ全員が知っていた。また、

後席でシートベルトを着用しない場合の危険性についても、92.6%の人が「知っている」と回答した(図2)。危険性の具体的内容として、「身体が前方に投げ出され、車内の構造物に衝突する」を92.1%、「窓ガラスを突き破って、車外に放出される」を87.4%の人が知っていた。「前席乗員に被害を与える」も70.6%の人が知っていた(図3)。着用の義務化と非着用の危険性ともに一般ドライバーには知られているといえる。関係する行政機関や団体などの広報・啓発活動、マスコミによる報道が効果をあげたことがうかがえる。

後席同乗者に必ず着用を勧めているのは約半数

後席でのシートベルト着用義務、非着用の危険性が認識されているのに対し、実際に自分が後席に乗る時にシートベルトを「いつも着用している」と答えた人は52.3%にとどまった。「時々着用している」は26.7%、「着用していない」は21.0%である(2面図8)。また、後席に人を乗せる時に、シートベルトの着用を「必ず勧めている」と答えた人も50.5%であった。「時々勧めている」は21.3%、「あまり勧めていない」「ほとんど勧めていない」は28.2%(図4)。年代が上がるにつれて「必ず勧めている」人の割合が高くなっているという傾向がみられた(図5)。

また主に運転する車種別で見ると、後席乗員にシートベルト着用を「必ず勧めている」と答えた人の割合が高いのはSUV/クロカン(58.0%)、セダン(56.7%)。逆に低いのは軽自動車(45.3%)、ミニバン(47.6%)であった(図6)。軽自動車が低いのは20代の回答者で軽自動車を運転している割合が30.2%と他の世代(約20%)よりも高いためだと考えられる。

一般道路では着用しなくてもいいという安易な意識

自分が後席に乗る場合「時々着用する」と答えた人のうち83.6%は「高速道路または自動車専用道路を走行する時に着用」と答えている(2面図9)。「時々着用を勧めている」では「高速道路では勧めているが、一般道路では罰則がないので勧めていない」という理由をあげる人が目立った。改正道路交通法の罰則規定が「当面、高速道路での違反についてのみ、運転者に対して行政処分の基礎点数1点が付される」となっていることで、一般道路では着用しなくてもいいと考える意識がはたらくていると思われる。

今後、さらに後席でのシートベルト着用を普及していくには「自分が後席で時々着用」「時々着用を勧めている」という人たちの意識のレベルアップが必要と考えられる。

1 ※2 SUV/クロカンとはスポーツ・ユーティリティ・ビークルのことで、多目的に使えるスペースを持ち、機動性の高いクルマ。クロカンとは悪路・雪道の走破性に優れた四輪駆動車。

シリーズ:命を守る教育現場 第④回「後部座席シートベルト着用の啓発②」

高速道路、一般道路に関わらず全ての席で着用してほしい

図10 後部座席でシートベルトを着用しない理由であてはまるものを全てお答え下さい (N=216)

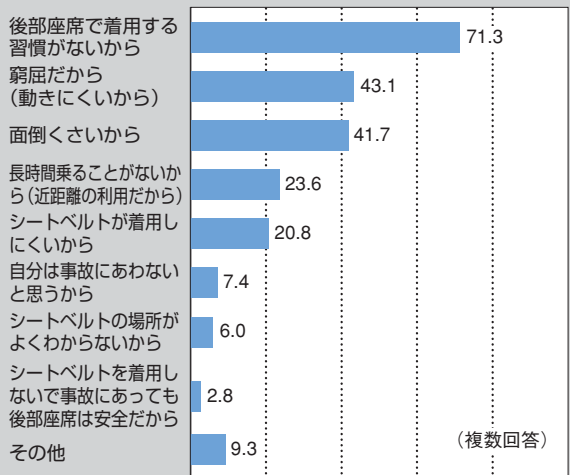


図8 あなたご自身がクルマの後部座席に乗る時にシートベルトを着用していますか? (N=1031)

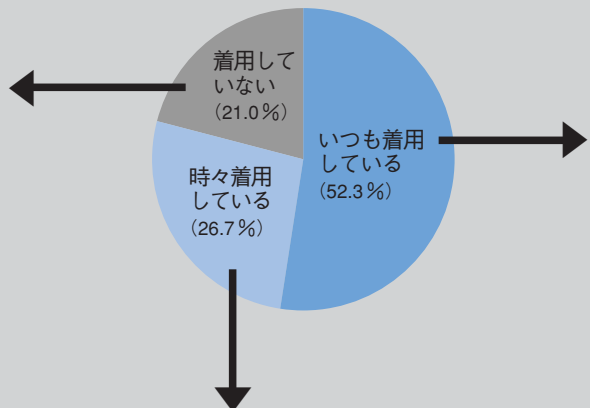


図7 後部座席でシートベルトをいつも着用している理由であてはまるものを全てお答え下さい (N=540)

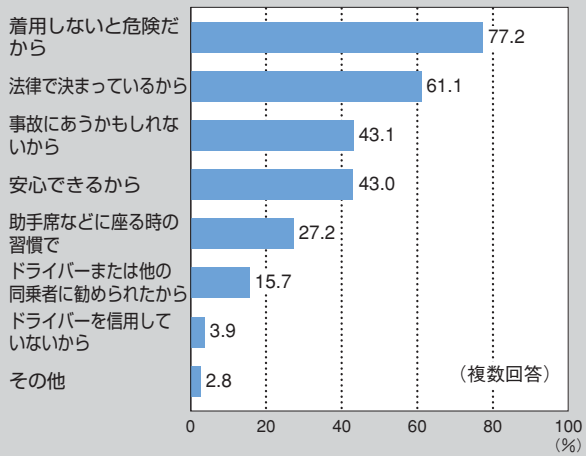


図11 後部座席でシートベルトを着用していないと、事故にあった時の後席乗員の死亡率は3倍になります。このような情報を聞いたら、着用しようと思えますか? (N=216)

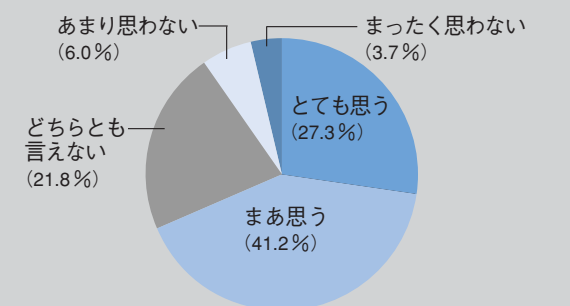


図12 ドライバーから後部座席でシートベルトを「着用してほしい」と勧められたら、着用しようと思えますか? (N=216)

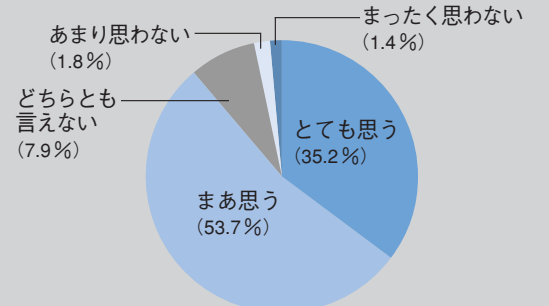
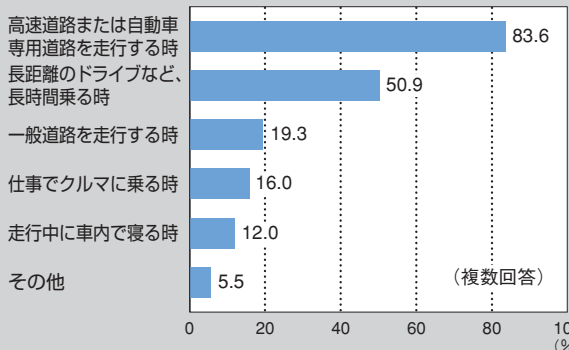


図9 後部座席でシートベルトを着用するのはどのような場合ですか? あてはまるものを全てお答え下さい (N=275)



一般道路でも非着用の乗員が死亡するケースも
後席でいつも着用していると答えた人の着用している理由で最も多いのは、「着用しないと危険だから」が77.2%。次いで「法律で決まっているから」(61.1%) (図7)。一方、後席で着用していないと答えた人の着用しない理由で、最も多いのは「後席で着用する習慣がないから」(71.3%)であった(図10)。

今年5月、(財)交通事故総合分析センターは後席のシートベルト非着用の危険性を、事故事例と交通事故統計データ分析をもとに『イタルダ・インフォメーション』に発表した。この発表をまとめた同センター研究員の竹内啓さんは、危険なのは高速道路に限らないとして、一般道路の緩い右カーブの片側1車線道路での事例をあげた。晴天の昼前、30km/hで走行中に縁石を乗り越え、車両前部が電柱と衝突。シートベルトを着用していなかった後席乗員が助手席シートバック左側に衝突し、頭部左側が左ピラー(助手席シートベルトの上部取付け部)に衝突して頭蓋骨陥没骨折で死亡した。前席は運転者のみでシートベルト着用とエアバッグ展開により、車内構造物との衝突を回避し、胸骨骨折で済んだ。後席乗員がシートベルトを着用していれば、ピラーとの衝突が避けられ、死亡には至らなかったと、竹内さんは推測する。つまり、一般道路を30km/hで走行しているシートベルト非着用の場合は死亡するケースがあるということだ。



(財)交通事故総合分析センター・研究員の竹内啓さん

「高速道路では渋滞時に追突されて車外放出になるケースがありますが、一般道路でも50km/hで追突され、乗員が車外に放出されることもあります」と竹内さんは話す。衝突実験で使用するダミー人形なら身体が車内に残るケースでも、現実の事例では身体が車外に飛び出してしまうことが多いという。生身の人間は関節が多く、ダミー人形と比較すると柔らかいので、車外へ飛び出しやすいためである。

前席乗員に被害を与える事例も発表されている。シートベルトを着用していなかった左側の後席乗員が右折時の衝突事故で、助手席のシートバックに衝突し、両下腿打撲など軽傷を負った。助手席乗員はシートベルト着用とエアバッグ展開により車内構造物には衝突しなかったものの、後席乗員が助手席のシートバックに衝突したことに伴って、腹部を圧迫され、重傷を負ってしまった。これも後席乗員がシートベルトを着用していれば、助手席乗員は重傷にならずにすんだと推測されるという。「クルマに乗っている全員がシートベルトを着用しないと、全員の安全は守れません。シートベルトを着用することは自分の身を守るだけではなく、他の乗員も守ることにもなるのです。」

また、平成16年から3年間の交通事故統計データの分析から、後席でシートベルトを着用していれば、死亡する危険性は平均して約3分の1になることもわかりました」と竹内さんは強調する。

ドライバーの呼びかけで後席での着用習慣化へ

後席で「シートベルトを着用しない」と答えた人に「後席でシートベルトを着用していないと、事故にあった時の死亡率が3倍になる」という情報を聞いたら、着用しようと思うか」と聞いたところ、68.5%の人が「とても思う」「まあ思う」と回答している(図11)。後席シートベルト非着用

の危険性についての情報提供は意味のあることだといえる。さらに、「ドライバーから後席でシートベルトを着用してほしいと勧められたら、着用しようと思うか」という質問には、88.9%の人が「とても思う」「まあ思う」と回答した(図12)。その理由として、「事故にあった時、取締りにあった時にドライバーに迷惑をかけたくないから」と答えた人が多かった。アンケートの結果から、ドライバーが後席乗員に勧めることが有効な手段の一つだといえる。

5月10日、11日の両日、鈴鹿サーキットで開催された「Enjoy Honda SUZUKA 2008」に会場した浜田聡さん・季代子さんご夫妻は後席に乗る人の安全を考えて、シートベルト着用を勧められているという。季代子さんは結婚する以前から、後席に乗る時でも必ずシートベルトを着用していたそうだ。「昔からクルマに乗る時は父から、どの席でも着用するように言われていました。それで、いつの間にか習慣になったようです。」



滋賀県から「Enjoy Honda SUZUKA 2008」に会場した浜田さんご一家

後席でのシートベルト着用を習慣化していくためには、クルマを利用する一人ひとりの意識を変えていく必要がある。そのためには高速道路、一般道路に関わらず、まずはドライバーが後席乗員に着用を呼びかけていくべきではないだろうか。



Honda ファンのためのイベントである「Enjoy Honda SUZUKA 2008」では、メイン会場での「安全ミニステージ」で鈴鹿サーキット交通教育センターのインストラクターが全ての席でのシートベルト着用を来場者に呼びかけた

ホンダではシートベルト着用理解促進のための小冊子「みんなでカチッとBOOK」を発行しました。詳しくは6面をご覧ください。